

事業名称	有田焼多言語化推進事業		
実行委員会	有田焼多言語化推進事業実行委員会		
中核館	佐賀県立九州陶磁文化館		
	住所	〒844-8585 佐賀県西松浦郡有田町戸杓乙 3100-1	
	TEL	0955-43-3681	FAX 0955-43-3324
	ホームページ	<a href="https://saga-museum.jp/ceramic/">https://saga-museum.jp/ceramic/</a>	
構成団体	佐賀県立九州陶磁文化館、佐賀県文化課、一般社団法人有田観光協会、有田町歴史民俗資料館東館（有田町教育委員会）、有田陶磁美術館（有田町教育委員会）、唐津市経済観光部		
事業開始時点の課題分析	<p>○有田町の伝統的産業である有田焼は、海外博物館に収蔵もされており、芸術品として海外からの関心も高い。</p> <p>○有田町では有田焼を観光資源として多言語化にも力を入れ、それぞれがパンフレットや案内表示を多言語で準備しているが、表記の仕方や翻訳が統一されておらず、混乱を招いている。</p> <p>○有田町に設置されている佐賀県立九州陶磁文化館では有田焼をはじめとし、唐津焼など九州各地に残る伝統産業である陶磁器（古陶磁から現代陶芸まで）を所蔵している。これらは外国人の関心が高く、ある程度の多言語化には対応している。</p> <p>○伝統的で地域性の高い陶磁用語も翻訳が統一されておらず、文化観光における外国人への訴求力のハードルとなっている。</p> <p>○一方で、館内で展示し、情報提供している文字情報も、展示方法も含めてより理解しやすいよう、早急に改善していく必要があると認識し、令和3年度には館内をリニューアルすることが計画されている。</p> <p>○こうしたことから、令和2年度から当事業でとりくんでいる学術的にも正しい翻訳をベースとして地域で使用される有田焼に関する翻訳を統一、標準化し、さらに今後の多言語化の基本的な仕組みを作るのみならず、全体での発信力を向上させて様々な国からの関心を高め、外国人観光客にも対応できるようにしていく必要がある。</p> <p>○この状況は、有田町・有田焼だけでなく、有田焼の歴史を語る上で不可欠の唐津市・唐津焼にも共通するものであり、唐津焼にかかる翻訳も標準化していく必要がある。</p>		
事業目的	<p>○陶磁器の専門美術館である佐賀県立九州陶磁文化館の知見を活用して、地域と連携しながら統一された翻訳を作るモデルケースとなり、有田焼および県内では唐津焼の魅力をより効果的に外国人観光客に発信できるような、質の高い多言語化の仕組みをつくるのが目的である。</p> <p>○有田町をはじめ、佐賀県内の地域経済を支えている窯業と観光業との連携を深める。</p> <p>○日本を代表する伝統産業であり観光資源でもある有田焼等陶磁器文化を最大限に活用し、地域の文化力とホスピタリティを向上させる。</p>		
事業概要	<p>本事業は次の事業によって構成される。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「有田焼」に関する記述の翻訳</li> <li>○「唐津焼」に関する記述の翻訳</li> <li>○翻訳を活用して、展示ガイドブックの英語版作成および展示パネルの英語版作成。</li> </ul>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐賀県立九州陶磁文化館の有田焼を含む各展示コーナーの解説パネル（英訳付き）を作成することで、展示の充実を図る。</li> <li>・有田町歴史民俗資料館（有田町教育委員会）が発行する「展示ガイドブック（令和3年3月改訂版発行）」の英訳版を作成することで有田焼の専門用語、陶磁用語の標準的な英訳を作成し、情報発信につなげる。</li> <li>・唐津城で展示している唐津焼に関する解説英文（QRコードダウンロード）のみなおしをするとともに、唐津焼の専門用語、陶磁用語の標準的な英訳を作成し、情報発信につなげる。</li> <li>・有田観光協会が発行している広報誌「アリタノヒビキ」の有田の地誌に関する記事を英訳し、有田観光協会のHPに掲載することで、更に観光面での訳語の活用を推進する。</li> <li>・上記の事業には、令和2年度の当事業で行った翻訳資源を活用する。</li> </ul>
<p>実施項目</p> <p>・</p> <p>実施体系</p>	<p>(1)学術的に正確かつ基準となる表現の翻訳の実施</p> <p>①九州陶磁文化館第三展示室の解説パネルの翻訳</p> <p>②有田町歴史民俗資料館ガイドブックの翻訳</p> <p>③有田町観光協会発行の有田の歴史紀行文翻訳</p> <p>④唐津城展示室における唐津焼解説の展示解説パネル・キャプションの翻訳</p> <p>⑤翻訳検討会議の開催</p> <p>⑥海外の専門家によるメール等での英訳に関するアドバイス</p> <p>⑦地名等の現地表記に関する観光視点のヒアリング</p> <p>⑧ネイティブによる翻訳のチェック</p> <p>(2)案内ツールの作成</p> <p>①九州陶磁文化館第三展示室の解説パネルの作成</p> <p>②有田町歴史民俗資料館ガイドブック英語版の印刷</p> <p>③有田町観光協会発行の有田の歴史紀行文（英語）のホームページへの掲載</p> <p>(3)案内ツールの設置</p> <p>①九州陶磁文化館第三展示室パネルの設置</p> <p>②有田町歴史民俗資料館ガイドブック英語版の配布と設置</p> <p>③有田町観光協会発行の有田の歴史紀行文（英語）の翻訳</p> <p>(4)第三展示室展示替え</p> <p>(5)事業効果の検証</p>
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>国内外で活躍する専門家（※1）に翻訳の監修を受けたことで、学術的に適切な英訳表現を活用した翻訳モデルが実現した。（※2）これらの翻訳モデルは、地域内で標準化した訳語を共有できるように域内の自治体や観光協会、博物館施設等と共有しており、地域のホスピタリティ向上につながっている。</p> <p>当事業で案内作品キャプションや解説パネル等の翻訳・作成を行った九州陶磁文化館では、はじめて外国人観覧客が展示作品を鑑賞しつつ読むための理解しやすい展示解説パネルが完成した。</p> <p>また、有田観光協会が発行している広報誌「アリタノヒビキ」の有田の地誌に関する記事を英訳し、同協会のホームページに掲載しているが、今後、更に域内で観光面での訳語の活用を推進していくことが期待される。</p> <p>（※1 国内外で活躍する専門家）</p>

	<p>ニコル・クーリッジ・ルマニエール氏（セイブパリー日本藝術研究所 研究担当所長）</p> <p>内田ひろみ氏（元大英博物館アジア部日本セクションプロジェクトマネージャー）</p> <p>（※2 翻訳モデルを活用した案内ツール）</p> <p>九州陶磁文化館の展示解説パネルの翻訳</p> <p>有田町歴史民俗資料館が発行する「展示ガイドブック」英訳版の翻訳・印刷</p> <p>唐津城で展示している唐津焼に係る解説の翻訳</p> <p>有田観光協会が発行している広報誌「アリタノヒビキ」の記事翻訳</p>
--	--

## 【事業実績】

### （１）学術的に適切かつ標準となる表現の翻訳の実施

学術的に適切な翻訳を実現するため、以下の2つの事業を実施することにより、有田焼に関する基準となる翻訳モデルの実現を目指した。

#### ①翻訳検討会議の開催

日 程：令和4年（2022年）

1月14日（水）から14日（金）

講 師：内田ひろみ氏

（元大英博物館アジア部日本セクション  
プロジェクトマネージャー）

大橋康二氏

（佐賀県立九州陶磁文化館名誉顧問）



#### ②翻訳検討会議及び翻訳アドバイザーによる 翻訳資料の監修

翻訳会社が翻訳した英訳に関し、学術的に適切な表現となっているか、外国人にとっても読みやすい表現となっているか等の視点で、翻訳検討会議の機会や翻訳アドバイザーに対し、会議の場だけでなくメール等の手段を用いて指導・助言を受けた。



有田町歴史民俗資料館において  
展示ガイドブックのための検討会 現地確認実施風景



唐津城において  
唐津焼展示解説のための検討会 現地確認実施風景

### （２）案内ツールの作成

（１）で作成した翻訳モデルを活用し、以下の案内ツールを作成した。

①佐賀県立九州陶磁文化館 第三展示室解説パネル

②有田町歴史民俗資料館 展示ガイドブック 300部

③有田町観光協会発行の歴史紀行文「アリタノヒビキ」を有田観光協会ホームページへ掲載

※URL : <https://www.arita.jp/>

### (3) 案内ツールの設置

(2) で作成した案内ツールは、九州陶磁文化館内、有田町歴史民俗資料館で掲示、開架している。

### (5) 事業効果の検証

当事業の効果を検証するため、佐賀県有田町在住の外国人2名を招聘し、当事業の成果物を検証したところ、次のような意見が聞かれた。

検証実施日：令和4年（2022年）3月10日（木曜日）

● 九州陶磁文化館 第三展示室展示パネルについて

これまでまったく外国語の解説がなかったのが、少なくとも英文が追加されたことは理解が深まり非常に良かった。

● 有田町歴史民俗資料館 展示ガイドブックについての意見

無料配布ではなく、今後増刷、または販売した方が良い。美術館側も収益を得ることが出来るし、その収益を今後の展示に生かしてほしい。

● 唐津焼のパネルについて

唐津焼と有田焼とでは性質が異なる部分も多い為、外国人観光客等へ解説するのが複雑であったが、今回翻訳整備されたことで、今後正しく解説することが出来る。

● アリタノヒビキについて

陶磁器だけでなく、陶磁器の背景となる歴史、町の風景、作り手やデザイナー、使う人たちが登場するような文章は、多くの人に強い印象を与えるので、このような翻訳は有田焼に興味をもってもらふことにとっても効果的。このような紀行文を正しく英訳するためにも、陶磁器の知識と用語の整理は必要である。

● 翻訳に使用した用語について

すべての案内ツールおよび唐津焼解説の展示解説に使用した用語は、よみがなとともに訳語を表にまとめ、佐賀県立九州陶磁文化館のホームページに掲載した。このような陶磁器用語と歴史用語については、翻訳の標準化に貢献するものとして、広く役立てられるダウンロード可能な情報としてアナウンスしている。



佐賀県立九州陶磁文化館 第三展示室において 展示パネルを確認  
事業効果の検証実施風景